

中琉関係史野外調査 I @台湾（基隆、台北、台中）



国立自然科学博物館にて



国立自然科学博物館にて



台中フィールドワークにて



台中フィールドワークにて



台湾大学との交流会



台湾大学との交流会



中央研究院にて



金瓜石にて

【沖縄タイムス 2025年9月2日付】

中 琉 時 代

第3種郵便物認可

「栄丸」遭難 琉大生が慰霊



栄丸の遭難場所近くで手を合わせる琉球大学の学生たち。8月24日、台湾基隆市の外木山海岸

基隆市の海岸 事件の風化懸念

現地での救助に当たった故・張添茂さん（27年生まれ）が2007年4月に受けたインタビューによると、栄丸は現場に打ち付けられて大きく壊れ、遺体は岩場に漂着するなどしていた。遺体は、台湾人がその場で茶毘に付した。生存者は基隆市内の病院に運ばれた。

栄丸は終戦から間もない1945年11月、基隆から出港し、機関故障を起こした状態で荒れる海を漂流した。犠牲者は100人を超えるが、乗船人数や犠牲者の正確な数は分かっていない。

授業を通じて栄丸事件を知ったという4年の山城瞳さん（23）は「遭難場所の案内表示があるわけでもなく、知る方法がなかった。実際に回れて良かった。フィールドワークは大切だと思ふ。こういう歴史を整理して広めていかないと、失われてしまうのではないかと感じた」と話した。

栄丸には宮古出身者が多数乗り込んでいたことから、一行はこの日のために宮古島産の泡盛を持参した。学生らは沖縄の線香やウチカビを供え、手を合わせた。

戦後80年

メンバーは人文社会学部の中村春菜准教授は台湾引揚げの専門で、授業で栄丸事件を取り上げている。遭難場所は台湾北部・基隆市郊外の外木山海岸周辺にあり、市内中心部から車で約10分、台湾で研修を行った。指導する中村春菜准教授は台湾引揚げの専門で、授業で栄丸事件を取り上げている。

台湾引揚船 宮古・八重山出身者が乗船

【松田良孝台湾通信員】戦後間もなく、台湾から引き揚げる宮古・八重山出身者が乗り込んだ引揚船「栄丸」が遭難した事件を巡り、琉球大学の学生や大学教員ら約20人が8月24日、遭難場所に近い基隆市の海岸を訪れ、線香を手向け犠牲者を追悼した。